

# かがやく花々

## 平和の子ら

学校法人平和学園  
平和学園小学校  
2016年度 学校だより 第13号  
〒253-0031  
神奈川県茅ヶ崎市富士見町5-2  
Phone 0467-87-1662/ 0131  
Fax 0467-87-0411  
サイト <http://www.aletheia.ac.jp/s/>

### 年間聖句 (2016年度)

このようにしてキリストに仕える人は、神に喜ばれ、人々に信頼されます。  
ローマの信徒への手紙 14章18節

### 言葉の響き

校長 橘 明子

春の嵐に心が折れそうな大人とは違い、強風に立ち向かう子どもたちの姿を見ていると、大人も勇気をもらいます。しかし、子どもの好奇心、勇気、たくましさなど褒めてよいのかどうか迷う時もあります。自分のまわりで起きていること、安全などについても心と体で察知してほしいと願います。また、自分の身を守るには危険に対する正しい知識も学んでおく必要性を思っています。日々の学習、学校・家庭生活の中で、様々な危険や災害などについても伝えていく大人の責任を感じます。

さて、平和学園小学校の生活の中心にはキリスト教の教えがあります。子どもたちはその教えの中で、命の大切さや生きる喜びを経験し、自分を見つめたり、友だちとの関係性を考えたりする生活を送っています。子どもたちが命を与えられた時、心の中は何色にも染まっていないとよく言われます。まわりの大人たちにたっぷりの愛情で包んでもらい、優しい声を聞きながら育まれて育つ中で、こころが少しずつ何色かに染まってくる。このような話をよく耳にします。

イエスさまがこの時期に、歩まれた道筋にはどのようなことが待っていたのでしょうか。出会う人々との交流の中で人の罪の深さに涙されたこともあったのではないのでしょうか。まっすぐに父なる神さまを信じる人たちとの出会いには、イエスさまも喜びに満たされたのではないかと。

「善きサマリア人」というお話があります。内容は、道に倒れている人を見て、たまたまその道を通った祭司もレビ人も道の反対側にわたって通り過ぎてしまった。旅をしていたサマリア人は、その人のそばに駆け

寄り介抱した。……というお話です。さて、倒れている人の隣人は誰ですか？とお話を聞いた子どもたちに尋ねると助けた人という答えが返ってきます。素直な子どもたちは倒れた人のことを、通り過ぎてしまった人のことを、また助けた人のことを様々な思いで受け止めているに違いありません。

毎朝、礼拝で聞くお話によって、子どもたちの心の中にはたくさんの種が蒔かれます。心に響く言葉、それは愛や勇気、希望、光、夢など。人と一緒に生きていくこと、命のこと、信じること、そのような聖書のお話を聞き、子どもたちの心は何かを感じて、自分の進む道を探しながら成長することでしょう。

今年度も残すところ数週間です。一日一日を大切にしながら、子どもたちと共に過ごしていきたいと思えます。

